

## 第2期足寄町まち・ひと・しごと創生総合戦略

足寄町役場総務課企画財政室企画調整担当

### はじめに

足寄町は、十勝地域の東北部にあり、東は日本百名山の雌阿寒岳を経て釧路市阿寒町及び白糠町に接し、南は本別町、西は上士幌町、北は置戸町、陸別町及び津別町に隣接しており、東西に66.5km、南北は48.2km、総面積は1,408.04km<sup>2</sup>にも及ぶ広大な町域を有し、町の行政面積としては全国一を誇ります。

気候は、阿寒、大雪両山系の山麓丘陵地形のため、山麓特有の気象現象と十勝内陸性気候の影響を受け、夏には30℃を超える暑さ、冬には零下25℃を下回るほど寒くなるなど寒暖の差が激しいのが特徴です。

産業は、行政面積の約80%を占める豊かな森林資源と地理的条件を活用した農林業を基盤としています。

特に酪農と畜産が盛んで、平成16年に「放牧酪農推進のまち宣言」を行い、中山間地域特有の広大な草地を活用した本町ならではの酪農経営も行っています。

また、阿寒摩周国立公園と大雪山国立公園に彩られた自然環境・景観にも恵まれ、特に阿寒摩周国立公園内のオンネトーは、国内外から多くの観光客が集まる十勝管内でもトップクラスの観光地となっています。

交通は、町内市街地で国道241号と242号が重複し、古くから道東地区の交通の要衝と言われ、十勝圏・オホーツク圏・釧路圏を繋ぐ拠点となっています。特にとちか帯広、女満別、釧路の道東3空港へのアクセス

はどの空港にも2時間程となっているほか、北海道横断自動車道の足寄ICも整備され、道央圏へのアクセスも格段に向上しています。

人口は、1962年に20,000人を超えましたが、それ以降は減少が続いています。2020年3月末の人口は6,667人で、国立社会保障人口問題研究所の推計によれば、今後も人口減少は続き、2040年には約4,000人（現在から約46%減少）、2060年には約2,500人（現在から約61%減少）になるものと推計されています。

本町では、人口減少が地域経済や住民生活に深刻な影響を及ぼすことから、第1期足寄町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、目指すべき町の将来像を「安全と希望、快適なまち」と定め、各種施策に取り組んできました。現在の第2期足寄町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下：総合戦略）においても、その将来像の実現を目指し、第1期の成果と課題を踏まえ、人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても、この町で暮らすことに幸せを感じられるような施策の展開を図っていくこととしています。

### 「安全と希望、快適なまち」を目指して

目指すべき将来像「安全と希望、快適なまち」実現のためには、すべての施策を画一的に展開する方法では、着実な成果達成が見込めません。多様で横断的な



神秘の湖オンネトーと雌阿寒岳（左）・阿寒富士（右）

課題を解決するために、必要性や重要性を考慮し優先度を決め、経営資源（予算、人財、資産）の重点配分を徹底し、高い実効性を確保することが必要です。そのため、総合戦略では、重点的な取り組みを3つの基本目標にまとめ、目標毎に実施すべき施策に関する基本的方向性や具体的な施策のほか、数値目標や評価指標なども明確にしています。さらには持続可能な開発目標（SDGs）の理念とも関連付けながら「安全と希望、快適なまち」を目指します。

### 基本目標1

#### 若い世代を中心とした、安心して働くための産業振興と雇用の場の創出

町民が安心して暮らすためには、経済的安定につながる仕事と雇用の創出を最優先に取り組む必要があります。特に、基幹産業である農林業の振興なくして本町の未来はありません。農林業の振興には、担い手の確保と育成、規模拡大や多角経営等に対する支援充実が不可欠です。さらに、若い世代が魅力を感じ、未来に希望が持てる産業振興と雇用の場確保のための地域産業の競争力強化を図り、それを支える人材の育成・確保を進めます。また、新たな産業の創出、ICTの活用などをおし、国内外の社会経済情勢の変化等にも対応できる地域経済力の向上を目指します。

#### 【施策】

##### ① 地域産業の競争力強化

本町の恵まれた地理的要因や地域資源を改めて見直し、持っている強みや特色を生かしながら、時代に合った農林業を中心とした産業振興、サービス産業の活性化・付加価値向上、観光地としての魅力づくりなどの取り組みを進めます。



放牧酪農推進のまち

#### ●主な具体的事業

- ・新商品開発や販路拡大などを支援します
- ・体験型観光ルートの開発と観光拠点となる施設の整備を図ります
- ・商工業者の店舗等改修に係る経費を支援します

##### ② 人材育成、雇用・担い手対策の支援

農林業では、放牧酪農や林業を志す人材は増えてきていますが、それ以上に就業者の高齢化と後継者不足が深刻です。後継者の育成、新規就業・就農希望者等の担い手確保のため、農林業未経験者が農業や林業を体験できる仕組みづくり、新規就農者による事業継承の迅速化のための支援を充実させます。同様に事業継続が厳しさを増している町内小規模商工業者の事業継続支援にも取り組んでいきます。

#### ●主な具体的事業

- ・新規就農希望者のための農業研修先の確保、経営能力向上のための支援などをおし、農業の担い手育成支援を図ります
- ・町商工会と連携しながら小規模事業者の事業継続支援を行います

### 基本目標2

#### 若い世代が希望に応じて、結婚、出産、子育て、働き方ができる環境づくり

若い世代が、安心して町に残って生活していくための経済的な安定を図るとともに、結婚から妊娠、出産、子育て、教育に至る切れ目のない施策を通じて、若い世代が安心して住み続けられる環境づくりを進めます。

#### 【施策】

##### ① 結婚・妊娠・出産育児の切れ目のない支援

妊娠・出産・子育てにかかる身体的、精神的、経済的負担が軽減されるよう各種施策の充実を図ります。



充実した子育て支援で元気な子どもたちを育みます

●主な具体的事業

- ・不妊治療等による経済的負担を軽減するため健やか妊娠支援事業を行います
- ・子どもの出産を奨励し児童福祉の向上に寄与することを目的に出産祝い金を贈呈します
- ・町内の保育に係る費用を完全無償化（保護者負担金相当額を全額支援）します
- ・子育て世代の経済的負担軽減などのため町内小中学生及び高校生の学校給食費を無償化します

② 児童・生徒の学力向上、キャリア教育など次代を担う人材の育成

足寄高校の魅力増進と学習環境を整備し、各種支援策をとおり郷土愛の醸成と若者の流出抑制を図るとともに、保護者の経済的負担を軽減し選ばれる学校のための支援を継続的に行っていきます。

●主な具体的事業

- ・足寄高校の魅力を向上させ、生徒数の維持・増加と学力等の向上を図るための各種支援を実施します

③ 安心して働きながら子育てができる環境づくりと就業者支援

障がいを持った児童・生徒の保護者が、安心して働きながら子育てできる環境づくりを進めます。

●主な具体的事業

- ・障がい児の放課後の一時的な施設利用料を無償化します
- ・全ての就学児童が無償で学童保育所を利用できるなど総合的な放課後対策に取り組みます

基本目標 3

各地域における定住促進、農山村をはじめとした地域における日常生活の機能維持及び地域ネットワークの構築

本町への新しい人の流れづくりのために、企業等の誘致や遠隔地勤務（テレワークやサテライトオフィスなど）ができる環境整備、交流人口や関係人口の拡大を図るなどの移住施策の充実が必要です。また、定住人口増のために、空家・空地対策、住環境整備などを進め、住みやすく生活しやすい環境整備と市街地機能の充実を図る必要もあります。町の魅力を多くの人に

知ってもらえるよう積極的なPRにも努めます。

【施策】

① 移住定住の推進・魅力発信

各種移住定住促進策を着実に推進します。将来的な移住に向けた裾野を拡大するため「ひと」「もの」の地域間交流を広げ、関係人口の創出と広域的な連携を進めていきます。

●主な具体的事業

- ・空家の適正管理を進めるとともに、老朽危険家屋等の除却促進のため除却費用の支援を行います
- ・積極的な情報収集と情報発信を行いながら各種移住施策を充実させます
- ・定住人口の確保と町内経済活性化のために、住宅の新築や増改築費等の支援を行います
- ・町の魅力を各種メディア等で積極的に発信し、本町を知ってもらう取り組みを進めます

② 地域における安心な暮らしの確保

本町は、広大な行政面積を誇るため、市街地と各集落間のネットワークも課題です。市街地機能の充実とともに交通ネットワークの整備を進め、集落にいても住みやすいと思える環境づくりを進めます。

●主な具体的事業

- ・公共交通機関の維持を含めた交通ネットワークの充実を図ります
- ・高齢者など町内における買い物困窮者の対応についても各関係機関と連携して対応します

③ 高齢者の社会参加と生きがいづくり

町内に住む高齢者が生涯にわたって生きがいを持ち、住み慣れた地域で健康に安心して生活できる環境づくりを進めます。



豊かな森林資源を活用した林業も盛んです

### ●主な具体的事業

- ・高齢者が持つ知識・経験を生かし、地域社会で活躍する場や生きがいづくり活動を推進します

### ④ 快適な生活環境の確保

必要なインフラ機能を維持しながら、コスト削減のため、公共施設等の長寿命化計画を策定し、施設の再整備と既存施設の統廃合を計画的に進めます。また、近年各地で頻発する大規模災害への備えを進め、災害に強いまちづくりの取り組みを進めます。

### ●主な具体的事業

- ・住民生活を守るために必要な道路や橋梁きょうりょうの計画的な管理と保全を進めます
- ・生活環境の保全及び衛生的な生活の確保を図るため公共下水道等の普及促進を図ります

### むすびに

本町の総合戦略で示された各種事業の中で、成果を上げている地元の足寄高校に対する各種存続支援についてご紹介させていただきます。

少子化や過疎化が進み、入学者数の減少による高校の間口減や統廃合は、若者流出を加速させ、町の活力が損なわれる大きな問題です。本町でも足寄高校の生徒減少に頭を悩ませていましたが、1995年に魅力ある学校づくりを支えようと設立された「足寄高等学校振興会」と存続に向けた支援策強化のため、高校と振興会、行政が一体となって対策を検討しようと2007年に組織された「足寄高校を存続させる会」が両輪となり、高校の存続活動に取り組んできました。

具体的な取り組みとしては、高校に通学させる保護者の負担軽減等を目的とした通学費や下宿代、入学時一時金などの補助制度の拡充、高校生への学校給食提供と町の学校給食費無償化事業による給食費の無償化、講座や模試、検定費用などの支援、カナダの姉妹都市に1年生全員を派遣する事業などを行っています。

さらに、部活動支援の一環として野球部監督に元日本ハムファイターズの選手だった池田剛基氏（鶴川高校出身）を迎えました。部員不足に悩む郡部校が多い中、本年度は、町内外から16人が入部するなど、今後の活躍に大きな期待が寄せられています。

また、ハード面では、通学が困難な生徒のための下宿整備のほか、生徒の学力向上に向けた環境整備と将来の地域を担う人材育成を目的とした高校生のための公設民営塾も設置しました。学習塾運営で実績のある民間事業者を指定管理者とし、きめ細かな指導で学力や進学率の向上に大きな成果を上げています。

これらの官民挙げた取り組みにより、2015年度に109人まで落ち込んだ全校生徒数は、同年に学習塾開設や給食無償化事業などをスタートさせたこともあり、翌年度には123人に回復、以降は、これらの取り組みが地元中学生のみならず近隣の生徒や保護者にも幅広く認知され、2018年度からは完全2間口を確保し、本年度の生徒数は174人となりました。この数字は2002年当時の生徒数に匹敵しています。

高校存続の取り組みは、地元で高校が存続し生徒数を確保しただけではなく、生徒たちに郷土愛の醸成を促すことにつながり、若者の流出抑制にも効果を生んでいます。また、本町の子育て、教育に至る切れ目のない施策を多くの人に知ってもらう機会にもなっており、大きな魅力発信にもつながっています。

今後の人口減少対策は、さまざまな現代的課題に対して、これまでよりもさらに具体的な取り組みが必要と思われていますが、足寄町は総合戦略に基づき、小さな町ならではのキラリと光る施策をとおして、町民が笑顔で過ごすことができる「安全と希望、快適なまち」づくりを目指していきます。



町民の期待高まる足寄高校野球部